

Hm²助成支援団体のご紹介

アーキウォーク広島

代表 ^{たか た まこと} 高田 真さん

広島市内で建築に関するイベントを開催したり、建築ガイドブックの発行などにより、建築や都市の建物への関心を高めてもらい、広島をより住みよく美しいまちにしていこうを目的に平成21年に結成されたのが「アーキウォーク広島」です。代表の高田真さんは「広島市内の優れた建物を一斉に特別公開して、その魅力に触れてもらいイベントを毎年秋に行っています。最近では広島県土木局のプロジェクト「ひろしまてものがたり」選定委員として、県全域の建物の魅力発信にも関わりました」と活動内容について語ります。

地域に眠る建物の価値を伝え、財産として共有するために

平成28年度は広島市南区出汐に残る被爆建物「旧陸軍被服支廠倉庫」の価値共有プロジェクトに取り組みました。かつて軍



▲ 旧陸軍被服支廠倉庫の外観

都と呼ばれた広島の軍需工場のスケールを体感できる唯一の場所であり、被爆時の外観が概ね残されている次世代に受け継ぐべき大切な遺構。この「旧陸軍被服支廠倉庫」につ



▲平成28年11月の「訪れ・知り・想う」建物見学会の様子

いて触れる機会や知る機会を提供し、地域の財産としてその価値を共有することを目的としています。8月に最新の研究をもとに建築としての特徴や見どころを掘り下げて解説するトークイベントを開催したほか、11月には建物内部見学会や有識者を交えたディスカッションを含むイベント「訪れ・知り・想う」建物見学会とシンポジウムを開催。幅広い世代の人たちが大勢参加しました。

「旧陸軍被服支廠倉庫は被爆の実相を語る貴重な建物ですが、たとえ被爆していなくても残すべき建築上の大きな価値があります。また、その存在は広島の近代化の歴史を象徴するものでもあります。そういった多面的な価値を皆で共有することで、地域の誇りになり活性化にもつながると考えています」と、高田さんは次世代に伝える活動についても語ってくれました。



▲平成28年11月の「訪れ・知り・想う」シンポジウムの様子

観光アシスタントひろしま

副会長 ^{かみやま てつかず} 上山 哲一さん

平成14年に広島が大好きな人たちが、広島市への観光客を増やすことがまちの活性化に繋がると考えて発足したのが「広島市観光アシスタント協会」。平成23年に「観光アシスタントひろしま」へと改称し、現在は105人の会員が登録。広島市を訪れた人に観光案内をするボランティア活動と、そのボランティア活動に関わってくれる観光アシスタントの人材育成を目的に活動しています。

需要に応えるためにボランティアガイドの育成が課題

「観光案内は、修学旅行生や一般旅行者からの依頼が多い平和記念公園のガイド依頼を受け入れる体制を整えるのが急務であり、重要な課題です。平和について学ぶために平和記念公園を訪れる人は年々増えていますが、ガイドの人数は不足がち。



▲ ボランティア養成講座の様子

平成28年は、全国の学校や企業、グループなど合わせて147団体からの依頼に対応しましたが、旅行シーズンのピークとなる春先4月後半から6月前半、秋口の10月、11月には、残念ながらお断り

する場合があります」と副会長の上山哲一さん。目配り、気配り、心配りを図るためにガイド1人につき10人前後が適正人数とされていますが、現在は少しでも1人あたりの対応人数を増やすために、手ぶら拡声器を導入して屋外でもガイドの話を聞きやすくなり、レーザーポインターを取り入れて、ガイドする側される側の両者が分かりやすく説明できるように工夫をしているそうです。



▲「平和記念公園」案内の様子

「平和記念公園を中心としたガイドは、訪れた人たちに平和の尊さ、原爆の悲惨さ、人の命の大切さを学んで帰ってもらうことが使命とされることから、われわれの責任も重大だと考えています。後世にきちんと伝えるためにも、今後も一緒に活動に取り組んでくれる仲間の育成が大切になってきますね」と、上山さんは未来に向けて託された大きな課題について語ってくれました。

笑顔つながり隊

代表 ^{うえ いく こ} 上 郁子さん

子育てと仕事を両立しながら、いきいきと働きたいと考えていた代表の上郁子さん。勤務先の歯科医院に来院される患者さんなど、子育て世代の多くの人が悩みを抱えていると知り「同じ母親として女性としてお互いに助け合う活動が何かできないだろうか」と、子育て中の同僚に声をかけ、平成25年に活動を始めたのが働く女性を応援する「笑顔つながり隊」です。

当初は勤務先の歯科医院内で、患者さんや同僚から使い終えた子ども服を提供してもらい、子ども服の無料リサイクル活動をしたり、親子サークルへ出向き、歯科医師・歯科衛生士による「歯みがき指導」、劇やペープサート（紙人形劇）を使った「歯のお話会」などを行ったそうです。

拠点を構えてより地域との交流を



▲「矢野の家」の前の畑での食育活動の様子

活動4年目の平成28年度は、安芸区矢野にある空き家を活用し「矢野の家」として拠点を構え、「子育てと健康と地域をつなぐ」をテーマに活動しています。メンバーは歯科医師・歯科衛生士・介護福



▲「コーヒーマンデー」で提供されるお茶とお菓子

祉士・管理栄養士・保育士等の資格を持ち、専門性を活かしたアドバイス・相談会も行っています。毎週月曜日と木曜日は「矢野の家」を開放し、訪れる人同士が気軽に話が出来る場を設け、月曜日は「コーヒーマンデー」としてお茶

を飲みながらリラックスして過ごしてもらっています。また近隣の方が作ったお菓子を味わいながら、管理栄養士による「離乳食相談会」をするなど、地域住民との交流も積極的に行っています。「矢野の家」の前にある畑では、地域住民の協力もあり、子どもたちと一緒に野菜を作り親子の食育活動も行っています。活動するうちに、多世代に渡る方々の来訪が増えてきて「矢野の家」を通じて三世代交流も生まれているそうです。「来られた方が元気になる、笑顔が生まれることで、地域の活性化にもつながると思います。こうした交流のきっかけづくりを行い、相互に支え合うコミュニティづくりをしていきたいです」と、上さんは今後について語ってくれました。



▲地域住民との交流の様子

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
Hm²

（公財）広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²（ふむふむ）」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は、学識経験者などで構成する運営委員会が公開審査し、決定します。

これまでの助成団体や助成額、活動報告等については、（公財）広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

また、基金では多くの皆様からの寄付をお願いしています。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm²（ふむふむ）は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支えていくために設けられた基金です。私たちの住む広島をよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店／別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口
専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません（ただし、広島銀行の窓口からの振込に限りです）。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日（休日の場合は翌営業日）に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm²（ふむふむ）」とは…【ひと（Hito） まち（Machi） 広島（Hiroshima） 未来づくり（Miraizukuri） ファンド】の略で、頭文字（HMHM）をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

人材バンク活性化委員会

～『人材バンクを知ってほしい』達人たちが取り組んできた20年～

地域活動やまちづくりのお手伝い。

それは、まちの文化形成に大きな役割を担う活動へと成長

仕事や趣味などで得た知識や技術を生かし、助言、実技指導などを行うボランティア希望者が登録している「広島市まちづくりボランティア人材バンク」。平成9年にボランティア希望者とボランティアを求める地域や団体をつなぐ制度としてスタートし、平成29年で20周年を迎えます。

そこで今回は、あらためて人材バンクの役割とその目的、そしてこれまでの活動や現在の活動について、「人材バンク活性化委員会」の皆さんに振り返っていただきました。

プロ以上の情熱と誇りを持って



▲まちづくり市民交流フェスタ2016
人材バンク達人祭の様子

平成6年10月、広島市で行われた「アジア競技大会」をきっかけに、市民のボランティアへの参加機運が高まって、平成8年4月に広島市に「まちづくりボランティア推進室」が設置されました。同年11月に人材バンクが発足、平成9年4月のボランティア紹介スタート時の登録者は約150人。これまでの20年間に、延べ700人余りが登録しました。現在は20代の大学生から80歳代の方まで、約270人が登録し活動しています。

「当初からボランティア登録者の経歴はさまざまで、企業勤めだった方や行政職員だった方、その他あらゆる分野でそれぞれの道を極められた



▲まちづくりボランティア人材バンク発表会の様子

方々に、今のまちづくりボランティア人材バンクの土台を築いてもらいました」と語るのは発足当初からの登録者で、現在の活性化委員会ではリーダー的存在の中島幸司さん。

平成14年11月には、人材バンクに登録された方々の活動を、自分たちの力で広島市民に幅広く知ってもらいたいという思いから、ボランティア登録者のまとめ役となるワーキンググループを立ち上げました。プロではないけど、人によってはプロ以上の情熱と誇りを持って活動している人や自らの知識や技術で地域社会の役に立ちたいという熱意を、どうやって伝えるのか。同年12月に創刊した本誌「らしっく」で、毎回人材バンク登録者の活動について紹介してもらうなど、ワーキンググループの皆さんは、さまざまな広報活動に積極的に取り組んできました。

まちの文化形成に大きな役割を担う活動を

「ワーキンググループは平成18年から現在の「人材バンク活性化委員会」へと名称を変更しますが、基本となる考え方、役割は変わりません。人材バンク登録者のボランティア活動をもっ

と活発に、出番を増やしていくためのアイデアや思いを出し合い、自分たちにできることを考えて取り組んでいます」。

毎月第4土曜日の午後の「まちづくりボランティア人材バンク発表会」は、平成15年2月から続けてきました。合人社ウエンディひと・まちプラザの南棟1階ロビーを活用し、ここに来れば



▲「らしっく」創刊号

人材バンクの達人に会えることを知ってもらい、気軽に立ち寄ってもらえる場として定着してきました。

平成17年には、初めてフラワーフェスティバルのパレードに参加。平成19年の参加では、人材バンクふれあい広場を作り、ステージ発表と、つくる・あそぶ・ゆとりをテーマにした体験コーナーで、たくさんの達人が活躍しました。今年は、フラワーフェスティバル開催中の3日間、合人社ウエンディひと・まちプラザを会場に、人材バンクの達人たちによるイベントを行います。“広島のまちづくりに貢献したい”、“知識や特技を生かし、地域社会の役に立ちたい”達人たちの思いが詰まったイベントで、さらに人材バンクをPRしたいと張り切っています。

「人材バンクの良さは、市民と行政が協力して取り組んでいることです。現在は、(公財)広島市文化財団まちづくり市民交流プラザが、人材バンク登録者とボランティアを求める地域や団体をつないでくれているので、安心して活動できています。とりわけ、歴代担当職員の格別の助力があってこそ、と皆が感じています。この取り組みが、広島市内の社会資源の活性化に大きく寄与していると感じています」。



▲平成19年フラワーフェスティバルの様子

平成24年には、作詞を得意とする永岡紘一さんを中心に、人材バンクのテーマソング「絆愛」が完成し、CDも制作しました。毎月の人材バンク発表会やボランティア活動の現場で披露しています。

平成27年に、特技の



▲「らしっく」創刊号で中島幸司さんを
紹介した誌面。

似顔絵を生かし、人材バンク20年の歩みを紙芝居にした山口紀行さんは「戦後の広島市の復活、復興という“時代を動かすエネルギー”がわれわれのボランティア活動につながり、人材バンクの立ち上げ時も、初めてフラワーフェスティバルに参加した時も、お金は無くても、知恵と力を出し合い、工夫して行動してきました。その熱意を次の世代に伝えていきたいですね」と語ります。

「20年間でそれぞれの達人が積み重ねてきた個人のスキルをもっと磨いていくことが、人材バンクの活性化にもつながっていくと思います。人材バンクのボランティアは、例えば災害支援ボランティアのように、特別な役割を果たすものでも、驚異的な力を一度に発揮するものでもありませんが、私たちの日々の暮らしをより豊かなものにしていくために無くてはならないボランティアであり、まちの文化形成に大きな役割を担っています。そういった役割の下で、どうやって次の世代にこの思いをつないでいくのが今後の課題になると考えています」。

それぞれの経験と知恵と工夫、そして情熱。自分たちの活動が、まちの文化形成に大きな役割を担っていることを誇りに、惜しみない努力をしている皆さんの活動に、大きな力と夢を感じました。



▲まちづくりボランティア人材バンクの成り立ちを紹介した紙芝居を上演する様子

5月3日・4日・5日人材バンクの 達人たちが大集合!

「フラワーフェスティバル」に
お出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。

まちづくりボランティア人材バンクは平成29年4月1日で運用開始から20年になります。現在、270人余りの達人がボランティア登録しています。市民の皆さんが、地域や団体・サークルでまちづ

くり活動を進める中で「困った」「誰か教えて」という時には、まちづくりボランティア人材バンクへお気軽にご相談ください。きっと皆さんのお役に立てる達人が見つかるはずです。

そんな達人の技をご披露するイベントを5月3日・4日・5日のフラワーフェスティバルに合わせ、合人社ウエンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)で開催します。どんな達人がいるのか、ぜひこの機会に見て知っていただき、まちづくりボランティア人材バンクをお気軽にこ

活用いただきたいと思います。イベントの詳細は随時、合人社ウエンディひと・まちプラザHP等でお知らせしていきます。



※まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受けておりません。
※依頼があれば、紹介させていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

まちづくりボランティア 人材バンク発表会

ボランティア登録者が自らの達人ぶりを披露します。気軽にお立ち寄りください。

- 日時／毎月第4土曜日 午後2時～3時半
- 場所／南棟1階ロビー
- 参加費・申込／原則不要

開催日	内 容	出演者名
4月22日(土)	小唄の唄と三味線 ～気軽に触れて・弾いてみませんか?	梅田 笑子さん
5月	5月の人材バンク発表会はお休みします。	
6月24日(土)	インドの文化について	サシバリ・ラオさん
7月22日(土)	終活ミニセミナー ～介護制度と身辺整理	ひろしま終活サポートセンター 河崎 康次さん

※内容・出演者は急遽変更になる場合があります。

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

合人社ウエンディひと・まちプラザ ☎(082)545-3911 ☎(082)545-3838